

第361回教育研究評議会議事要録

1. 日時 令和3年7月20日(火) 13:30～14:40
2. 場所 大会議室(一部web参加)
3. 出席者 三浦学長、塩谷理事・副学長、二見理事・副学長、
三上理事・事務局長、谷副学長、佐野副学長、塘副学長、
初澤人間発達文化学類長、井實評議員、中村評議員
垣見行政政策学類長、高橋評議員、福島評議員
末吉経済経営学類長、岩井評議員、福富評議員
長橋共生システム理工学類長、神長評議員、柴崎評議員
生源寺食農学類長、荒井評議員、金子評議員
小野原基盤教育主管、難波環境放射能研究所長
【オブザーバー】緑川理事、高橋理事、上井監事、橋本監事
4. 欠席者 なし

5. 議事

【確認事項】

第359回、第360回教育研究評議会議事要録を原案のとおり確認した。

【審議事項】

(1) 第4期中期計画(指標含む)第三次案について(戻り報告)

各学類長から、第360回教育研究評議会(7月6日開催)において提案され、各学類教員会議等に意見聴取していた結果について戻り報告があった。

初澤人間発達文化学類長から、第3期中期目標期間に掲げたアクティブラーニングと第4期中期計画第三次案に示されている数理・データサイエンス・AI教育の考え方、附属学校園における教科専任教員の配置を評価指標とすることについて意見が出されたとの報告があった。

垣見行政政策学類長から、特段の意見はなかったことの報告があった。

末吉経済経営学類長から、特段の意見はなかったことの報告があった。

長橋共生システム理工学類長から、第4期中期目標(素案)の各関連項目についての意見が出されたとの報告があった。

生源寺食農学類長から、特段の意見はなかったことの報告があった。

以上の戻り報告を受け、三浦学長から、資料1(参考資料)に基づき、意見に対する回答があった。

引き続き、三浦学長から、資料1に基づき、意見聴取等を踏まえ修正した第4期中期計画第三次案について提案があり、修正部分について説明があった。

審議の結果、一部修正の上、提案のとおり承認され、各学類教員会議へ、会議運営サイト掲載資料参照の上、報告することとした。

(2) 大学院の改革について

塩谷理事・副学長から、資料2に基づき、教員配属確定に向けた今後の対応、教育プログラムの具体化に向けた検討の進め方について提案があった。

質疑応答の中で、(1)教員配属確定に向けた今後のスケジュールが変更となっていること、(2)語学・グローバル系の教員配属の考え方、(3)教員配属変更後の数学及び理科の教員免許状の取り扱い、(4)学類改革への基本的な見解、(5)教員配属の変更によって想定されるマイナス面の影響について質問があった。また、教員配属後に懸念される課題について意見があった。

「(1)」については、塩谷理事・副学長から、スケジュールの変更は組織的な合意形成を図る必要があると判断したことによるものであるとの説明があった。

「(2)」については、塩谷理事・副学長から、語学・グローバル系教員がまとまることによって、より開かれた研究・教育が行われることに期待していること、異動先の役割については今後も検討しながら確立させていくことについて説明があった。

「(3)」については、谷副学長から、教員配属変更後には、人間発達文化学類及び共生システム理工学類が連携して数学及び理科の教員免許状を出す方向で検討すること、その場合、新研究科の地域文化共創専攻に数学及び理科の担当者がいなければ、地域文化共創専攻では数学及び理科の専修免許状を出さないことになることとの説明があった。

「(4)」については、塩谷理事・副学長から、今回の大学院改革が必ずしも学類改革へ直結するわけではないとの説明があった。

「(5)」については、三浦学長及び塩谷理事・副学長から、教員配属によってこれまで安定して受け入れてきた院生の確保ができなくなる懸念はあるが、今回の大学院改革では、これまで注目されていなかった領域でも魅力的な研究内容を作っていくことが大切であると考えており、人気のある領域のみに頼ることのない研究体制を作るべきであるとの説明があった。

審議の結果、提案のとおり承認され、各学類教員会議へ、会議運営サイト掲載資料参照の上、報告することとした。

【報告事項】

なし